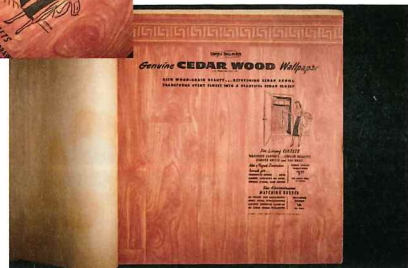




当時のカタログを見てみると、クローゼットの内側に木目のウォールペーパーを張るというイラストが紹介されている。金丸さんいわく「この時代に見えないオシャレというか、日本の美的感覚にも通ずる壁紙の使い方に感銘を受けた。これは日本の住宅でも押したいです」



サビアというメーカーの高精細スキャナーを使い、ヴィンテージの壁紙を復元している。歴史公文書や歴史的な美術品などのスキャンプロジェクトにも使われ、その性能は世界屈指だ

ニューメソッドペイントカンパニーという会社が、ユナイテッドウォールペーパーという壁紙ブランドを展開していた。資料がほとんどないが、1930年代から'50年代にかけて実働していたブランドだそう



当時のカタログに載っている壁紙パターンの一部を紹介。アメリカの壁紙と言えば、派手なフラワーパターンのイメージが強かったが、当時の洋服のファブリックにも使われていたような柄が多く、ヴィンテージ好きにはたまらないものばかり。パターンの一部が切れているので、その先にあったはずの柄を想像して描き、壁一面に使ってもバランスが良く調整しているのも特徴。防火不燃認定品は1㎡で6000円～

アメリカに実在した壁紙が最先端技術で甦った!



これが実際にリプロダクトした一例。ヴィンテージは立体感があるが、リプロダクトはあえてフラットに。実際にヴィンテージと同じエンボス加工を施すことも可能。ダイメンズの発泡壁紙の場合は1㎡/2万円～



ユナイテッドウォールペーパー以外の壁紙もラインナップしており、高精細スキャナーによって見事に再現されている。データ化する際に、色味を調整することも可能である



こちらはヴィンテージのウォールペーパーをリプロダクトした一例。その作りは、一般的な壁紙と同様なので、DIYでやってみてもおもしろいし、プロに頼むのも手である

My Cool Space!
Lightning No.329 Special Issue

1930~'50年代に実在したアメリカの壁紙メーカーを"復刻"。

ここ10年で様々なブランドが実名復刻を果たしたが、壁紙に関しては初耳。しかも世界的なヴィンテージコレクターが手掛けたというから期待が高まる。

Text/S.Sato 佐藤周平 Photo/S.Tsuji 辻茂樹
問い合わせ/リックプランニング info@ric-planning.jp http://www.ric-planning.jp



高水準の超高精細なスキャナーを用いて、当時の壁紙をデータ化し、それをインクジェットプリンターで出力しています。ただリプロダクトするのではなく、ベースの壁紙に抗菌作用のある機能的なものを使ってみたい、日本の風土に合わせてカラーリングを変えたりするなど、今のテクノロジーと融合させ、アップデートしているんです。部屋の壁の一面だけを、このウォールペーパーに替えるだけで部屋の雰囲気が変わりますよ」



リックプランニング/ゴールドゲート代表
金丸力也さん

「部屋の雰囲気は床と壁紙で決まるといふ定説があるほど、インテリアにおいて重要。アメリカだと内装を水性のペンキで仕上げるのが一般的だが、実は壁紙の文化もあった。そんな旧きよき時代の壁紙ブランド『ユナイテッドウォールペーパー』に目を付けたのが、ラングラーコレクターであり、内装業を本業とするゴールドゲートの金丸さんだ。

1969年生まれ。東京都出身。ラングラーのヴィンテージに特化したリックプランニングの代表。内装業を営むクラフトマンで、有名店舗も手掛ける

デッドストックのコーンデニムで、 テーブルをカスタムしてみる!

ヴィンテージ好きであり、内装のスペシャリストである金丸さんの真骨頂のひとつが、デニムを使ったカスタマイズ。今回はデッドストックのコーンデニムに
実用特許を取得した特殊な粘着シートを張ることで、様々なアレンジが可能に!

Text/S.Sato 佐藤周平 T.Miura 三浦正行 Photo/S.Kai 甲斐俊一郎
問い合わせ/リックプランニング info@ric-planning.jp http://www.ric-planning.jp



この日にユニフォームとして着ていたのは、ラングラーのギミーブックを金丸さんが手作業で複製したオーバーオール。毎日コツコツ手描きしていたらこうなったという驚きの1本

メーカーなどはわからないが、作りに1960年代頃のスカンジナビアファニチャーだと思われる。脚にはアイアンを使っており、このデニムが色落ちしてくるとかなりよい雰囲気になること間違いなし!



実際にデニムを貼った完成図がこちら。センターにうまくセルビッジを合わせることで、洒落た印象になった。エイジング経過はSNSで見せようかな



円形の天板にデニムを貼るには、職人の技術が必要となる。皺にならないように貼り付けていく様はさすがプロの職人。粘着シートはそう簡単に剥がれるものではないが、テンションのかかる端に接着剤を付けることでより強固に!

デニムを自由自在に貼れる。そんなデニム好きにはたまらない夢のようなカスタムパーツを発見。これを考案したのも、ヴィンテージのラングラー狂、金丸さんだ。

「内装業で使うために、デニムに粘着シートを貼り付ける実用特許を取りました。ドアやインテリアに貼れるので、アイデアひとつで様々なカスタムが可能。もちろん壁紙としても貼れますが、部屋が暗くなったり、移染する可能性もあるからオススはしないかな(笑)。個人的には色落ちを楽しみたいから、椅子やテーブルがオススですね。日本製のものからデッドストックのコーンデニムまでラインナップしています。弊社

で施工することもできますし、うちから独立して、全国各地にいる職人がやることも可能です」

今回、ライトニング編集部で使用するヴィンテージのテーブルで依頼。セルビッジをうまく使うことで、なんとも洒落た仕様になった。

「正直、角張った形の方がやりやすいのですが、円形こそ職人の腕の見せ所ですね。今回は貴重なデッドストックのコーンデニムでカスタム。水洗いなどをして、エイジングしてほしいですね」



セルビッジをセンターで張り合わせるため、天板の中心を正確に測っていく。セルビッジデニムは生地幅が狭いため、大型の家具だとセンターで合わせるのが難しくなる

粘着シート付きのデニムは単体でも販売しており、施工までお願いする場合は施工代が発生する。国産デニム1m/5000円～、USA製コーンミルズ1m/1万3000円、施工費3万円～



1969年に行われた伝説のフェスであるウッドストックの写真が使われている。アメリカのフラワームーブメントを象徴するアイテムとして有名。今も見ても新鮮である

1970年代にリリースされていたウッドストックプリントのベルボトム。シャツやジャケットなども販売していた。金丸さんの私物で、希少なデッドストックである



入念に打ち合わせを重ねて、今回はウッドストックのフォトプリントのベルボトムからパターンを拝借。個人オーダーも受け付けており、所有するヴィンテージをスキャンして、世界にひとつだけの壁紙が作れるのだ

「ヴィンテージデニムを使う案もありましたが、事務所に入ってもっとも目に付く場所のためインパクト重視でウッドストックのフォトプリントにしました。完成形はSNSなどで紹介しますのでお楽しみに!」

「まだ一部しか完成していませんが、まずは柱にヴィンテージウェアをスキャンした壁紙を貼りました。これはヴィンテージ好きにお馴染み、ウッドストックのフォトプリントパンツ。実際にデッドストックをスキャンし、壁紙として使えるようにパソコンで柄やトーンを調整し、インクジェットプリンターで出力しています」と金丸さんは教えてくれた。

一方の藤原さんは、その狙いをこう語る。

大事なヴィンテージクロージングや、自身で穿き込んで完璧なエイジングとなったジーンズが壁紙になる!? そんな突拍子もないプロジェクトが始まるという情報をキャッチ。百聞一見に如かずということで、実際に施工する現場に向かった。今回、オーダーしたのは名店ベルベルジンのディレクター兼ヴィンテージデニムアドバイザーとして活躍する藤原さん。新しい事務所の内装を金丸さんが手掛けており、ヴィンテージウェアをスキャンした壁紙を投入した。

大事なのはヴィンテージクロージングや、自身で穿き込んで完璧なエイジングとなったジーンズが壁紙になる!? そんな突拍子もないプロジェクトが始まるという情報をキャッチ。百聞一見に如かずということで、実際に施工する現場に向かった。今回、オーダーしたのは名店ベルベルジンのディレクター兼ヴィンテージデニムアドバイザーとして活躍する藤原さん。新しい事務所の内装を金丸さんが手掛けており、ヴィンテージウェアをスキャンした壁紙を投入した。

ヴィンテージの生地を スキャンして壁紙にしてしまおう!

金丸さんの新たなプロジェクトとして始まったのが、ヴィンテージを高精細スキャナーでデータ化し、壁紙にするというもの。この手法を使えば、唯一無二のウォールペーパーが作れるというわけだ!

Text/S.Sato 佐藤周平 Photo/M.Watanabe 渡辺昌彦
問い合わせ/リックプランニング info@ric-planning.jp http://www.ric-planning.jp
取材協力/リネットサインシステム http://www.sign-japan.com



この日はプリントしたばかりのウォールペーパーを貼っていく作業。このパターンは柱のみに使うので、インテリアのアクセントになること間違いなしだ



入り口のドアにも専用のクロスを張ることでアンティーク調に仕上げた。これはリネットサインシステムのドアテリアという扉向けの壁紙。様々なバリエーションを用意